

第3回みやぎ観光振興会議 石巻圏域会議 委員発言要旨

石巻商工会議所 青木八州会頭

- みやぎ観光回復戦略案（以下「戦略案」という。）の計画策定の趣旨のとおり、雇用等を維持し、新型コロナ収束後、成長につなげていくことが重要である。
- この地域は元々、観光地域ではないと思うので、KIBOTCHA、川開き祭り、金華山周辺の釣りなど具体的な魅力を伝えていくことが大事である。また、オプショナルツアーも、採算も考えながら具体的に洗い出し盛り込んでいけないか。
- 地域の魅力を発見、発掘し、商品を作っていける地域だと思う。プラネタリウムや、食と組み合わせるかどうか。市場で材料を買って隣接するレストランで調理してもらうのも良い。

バリュー・ザ・ホテル東松島矢本 阿部聡儀支配人

- 委員の意見や戦略案の概要から、やはり安心安全対策に尽きる。宿泊客からの声も上がっており、一番大事なところである。
- お客様に情報を発信していただく仕組みに、インセンティブがあれば自然に情報は広がる。
- 昨日、栃木県那須の観光関係機関では、東北エリアに修学旅行のプレゼンテーションを始めたとのニュースがあり、早い段階で手を打ってきたと思った。東松島市ならSDGsなど、他にない強みを打ち出せば良いのではないか。
- GOTキャンペーンについて、最近、旅行代理店から問い合わせがあった。また、10月からの香港からの旅行の問い合わせもあった。
- GOTキャンペーンを受け入れるべきか、関東圏の率が30%の旅行会社もあり、経営者として今も悩んでいる。

県タクシー協会 池田憲彦会長

- タクシー利用者は、4月5月は例年の3割程度で、5月6月はいくらか良くなってきていたが、石巻市で2名の感染者が発生して、また、落ち込んだ。
- GOTキャンペーンは楽しみだが、クーポンを地域で使ってもらう工夫が必要だ。

みやぎおかみ会 遠藤和子幹事

- 石巻地域ファンクラブに、他県から移住した方や商工会の青年部の方を取り入れてはどうか。
- 秋の教育旅行について、問い合わせがあった。今月、当地域ではホエールランドがオープンするので鯨文化や、トレッキングなどにより、来ていただけるよう働きかけたい。

石巻料理店組合 大森信治郎組合長

- 教育旅行などは、東京をやめ、東北などの感染の少ない場所となる。
- 適疎について、「疎」がネガティブなので、別な表現はないか。
- ワーケーションについて、かつて、東京と地方の両方に居住するとの考えがあった。推進する

- ため、度肝を抜くような施策、例えば土地の無償貸与などできないか。
- これまで一番「疎」と感じたのはお遍路だった。松島から金華山を歩くのはどうか。また、バスやタクシーを乗り継ぐ、自転車も一緒にと考えれば、観光が広がるのではないか。
 - 女川漁港の灯台を見ながら告発すると結ばれることを広げてはどうか。夕日が美しく雰囲気が良い。駅の展望台を潤いのあるものにできないか。

東松島市観光物産協会 菊田良光会長

- マイクロツーリズムについて、地元のシビックプライドを醸成し、一人一人が観光マンになれないか。先日、同窓会で地元の名所を巡ったが、3分の1程度の参加者が始めてで驚いた。
- 地産地消のように、地域愛をしっかりと地元の方へ繋いでいけば、近郊観光の掘り起こしのヒントになるのではないか。

(株)街づくりまんぼう 木村仁代表取締役専務執行役員

- 地元の小学校などから、石ノ森萬画館に行けないので、来てくれとの要望があり実施した。
- 修学旅行が近場となり、当社に問い合わせがあり、防災教育や食事などの施設の情報を含め、対応するためのプログラム作りに取り組んだ。気づいたことは実施したが、もっと関係機関と具体的な役割分担などを情報交換しながらできたらよいと思う。

(株)ミヤコーバス石巻営業所 後藤正基所長

- 観光地となっているところへは、修学旅行や遠足の問い合わせがあった。修学旅行などをキーワードに取り組んではどうか。

鮎川まちづくり協会 齋藤富嗣代表理事

- 離島や、みちのく潮風トレイルなどを「歩く」を持続可能な商品作りや、そこから北上してハイキングなど持続して展開していければ面白い。
- 東松島市から牡鹿半島まで、海・山・川などの素晴らしい景観がある。それと密にならない等のアイデアと、新たな観光に結べればと思う。

東日本旅客鉄道(株)石巻駅 佐藤正幸駅長

- この地域に勤務するようになって3年、福島に住んでいるが、この地域は良いと地域外へ向けて伝えたい。
- 石巻駅の利用は20%程度だったが、7月になって若干上がった。ホリデーパスは平日も利用できるようになった。
- 車利用が多いのであれば、ドライブコースや、タクシーのコース等の紹介などの情報発信を。地域が元気でないと会社も成り立たない。

石巻専修大学 庄子真岐教授

- 安全安心対策の見える化について、危機管理としては医療機関との連携も必要である。

- コロナ収束後の高付加価値な取組として、適疎は安心ブランドにもなり、付加価値として価格を上げられる。目標値は入込数ではなく、消費額で良い。
- 石巻地域ファンについて、県外の方のみを線引きするのではなく、県民や移住者などもパートナーとして取り込んでいくべき。
- 適疎について、他の地域での取組も聞こえてきているので、「石巻適疎」を早く打ち出すべき。

女川町商工会 高橋正典会長

- 町は東日本大震災で人口が減っているため、交流人口を増やす取組をしている。
- アラスカの船で、2週間で新型コロナが蔓延したというニュースがあり、どうしたらよいか分からない。新型コロナの収束が見えてこない。

東松島市商工会 橋本孝一会長

- 地元では部落単位のお祭りまでもほとんど無くなり、薬等が出るまでは、地元のものは、地元で循環させなくてはいけない。
- 地元では商品券を企画し、地元で経済が循環するよう取り組んでいる。収束すればV字回復すると思うが、それまでは現実的な対応が必要である。

リボンアート・フェスティバル実行委員会 松村豪太事務局長

- 適疎はネガティブな表現であるが、初めに聞いたときから、そこも含め良い言葉だと感じている。
- 東松島や牡鹿半島は、まだ十分に観光施設やインフラが整備されていないが、景色が素晴らしい。ワーケーションで地価の高い都市部でなくても仕事ができるとか、オリンピック中の密を避ける場所として押し出してはどうか。
- G・O・Tキャンペーンは、圧倒的な予算で行われるが、市民は困惑している。安心安全対策を観光施設だけがするのではなく、お客様にも負担していただき、一緒に作るべき。

貴凜庁(株) 三井紀代子社長

- 防災教育型宿泊施設を運営しているが、屋内の行事を屋外に変更するなど安心安全対策したらお客が戻った。
- 新型コロナに対し緊張感を持って対応している。職員の検温や、お客様の問診、除菌力の強いお掃除ロボの導入など「見える化」により、お客様が戻る。
- 今月の4連休でしっかり対策しないと、V字回復になるかどうか大事である。

女川町観光協会 持田耕明副会長

- 町は景観が素晴らしく、「疎」は良い言葉である。みちのく潮風トレイルを押し出しても良いのではないかと。残念だが町でパンフレットを配布していない。
- 町では宿泊客に3千円のクーポンや製品を送ることになった。
- 今は県内のお客様が多い。4連休やお盆は、予約が多いがキャンセルも増えている。受け入れ

側も万全な態勢で望みたい。

石巻観光協会 後藤宗徳会長

- 戦略も大事であるが、具体的な施策も大事である。県、市町、DMOそして観光協会で役割を分担し、しっかり対応していきたい。
- 県にPCR検査の充実をお願いしたい。感染をはっきりさせれば、感染していない人が経済を回すようにできる。
- 「適疎」について、交通安全の標語のような表現はどうか。